

腎臓リハ NEWS LETTER

<https://jsrr.smoozy.atlas.jp/ja/>

発行：一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会 事務局
〒162-0833 東京都新宿区笹塚43 新神楽坂ビル2階
有限会社ビジョンブリッジ内 E-mail: kanri@jsrr-office.jp



第71回日本透析医学会学術集会・ 総会開催のご案内

兵庫医科大学循環器・腎透析内科学

倉賀野 隆裕

第71回日本透析医学会学術集会・総会を2026年6月19日(金)から21日(日)にかけて神戸ポートピアホテル・神戸国際会議場・神戸国際展示場・ワールド記念ホールを会場とし、「Empower the people. 一腎代替療法に活力を一」をテーマに掲げ、開催させていただきます。大会長を拝命した2023年は、まだCOVID-19の世界的なパンデミックの影響が医療現場でも色濃く残っている時代でした。現在も不安定な中東情勢や、物価・医療資材の高騰等、決して明るい話題が多くない環境下で、透析医療の現場では、様々な職種の皆様、透析医療や看護・介護の質向上のため献身的に尽力されています。今回テーマとさせて頂いた「Empower the people」を直訳すると「人々に力を与える」となります。本会への参加が、決して穏やかとは言えない環境で働かれている皆様の研究・診療・看護・開発・生活の活力となり、更には大会終了後に、職場に戻り、患者様や参加できなかった同僚の皆様、に活力を分け与える事ができる大会を目指し、準備してまいりました。主要プログラムも従来のシンポジウム・ワークショップ・教育講演は、すべての職種の皆様にご満足頂けるように幅広く、バランスが取れた内容を企画しました。また日本腎臓リハビリテーション学会をはじめとして、日本腎臓学会・日本呼吸器学会・日本血液透析濾過医学会・日本腎・血液浄化 AI 学会などとの他学会との合同企画シンポジウムを企画しています。一般演題も約2300演題を超える応募

があり、腎臓リハビリ関連の演題も多く応募して頂いています。事務局としては、腎臓リハビリテーション学会の皆様にも十分満足頂けるプログラムになっていると自負しております。

透析医学会は展示会場が広く、多くの企業が参加されています。神戸らしさを感じて頂くために、展示会場でスタンプラリーに参加して頂ければ、神戸に店を構え、世界的に有名なパティシエ8人からなるオリジンコウベから神戸スイーツを皆様に提供して頂く予定です。また「EMPOWER 企画」として、高嶋ちさ子さんによる～ゆかいな音楽会出張版～を企画し、音楽の力で活力を得て頂きたいと考えています。また最近異常気象による影響で、体調管理が難しく、通院が困難となる事もあります。兵庫県出身で分かりやすい天気キャスターとして大人気の蓬莱大介さんに天気予報の見方や我々が注意すべき事を講演頂く予定です。更にリラックスして頂くために、手相占いでも有名な島田秀平さんにも手相の見方をご講演頂く予定です。

是非日本腎臓リハビリテーション学会の皆様も、第71回日本透析医学会へのご参加を検討して頂き、主要プログラムで新たな知識を共有するとともに、神戸グルメやスイーツを楽しみつつ、EMPOWER 企画から活力を得て頂く事で、本会へのご参加が、これからの診療・看護・介護・研究のお役にたて頂ければこの上ない喜びです。

腎臓リハビリテーションガイドライン 改訂第2版について

ガイドライン委員会委員長 星野 純一

腎臓リハビリテーション診療ガイドラインの改訂第2版が刊行されることになりました。2018年に世界で初めての腎臓リハビリテーション診療ガイドラインとして初版が発刊されて以降、腎臓リハビリテーションは大きく発展してきました。当時は、腎臓病患者さんに対して「運動してよいのか」「どのように運動を行うべきか」という点について、医療者の間でも十分に共有されていたとは言えませんでした。初版ガイドラインは、腎臓病の各段階において、運動療法を中心とした腎臓リハビリテーションの意義を整理し、この分野の基盤を築く重要な役割を果たしました。

その後、国内外で多くの研究が行われ、腎臓病患者さんに対する運動療法は、運動耐容能、筋力、歩行能力、身体活動量、生活の質などを改善する可能性が一層明らかになってきました。また、わが国では2022年に透析時運動指導等加算が新設され、腎臓リハビリテーションは理念として語られる段階から、実際の診療の中で提供される医療へと進みつつあります。こうした診療環境の変化と新たなエビデンスの蓄積を受けて、今回の全面改訂が行われました。

改訂第2版では、初版で取り上げられた保存期CKD、血液透析、腎移植に関する運動療法の内容を最新の研究に基づいて見直すとともに、新たに腹膜透析患者さんに対する運動療法も検討しました。特に血液透析患者さんでは多くのランダム化比較試験が蓄積され、透析中運動療法を含むさまざまな運動介入が身体機能や健康関連 QOL の改善に役立つ可能性が示されています。一方で、死亡や心血管イベントといった長期的なアウトカムについては、現時点ではまだ十分なエビデンスが得られていない部分もあり、今後の研究課題として残されています。

ガイドライン作成においては、数千に及ぶ論文を丁寧に読み込み、大きな労力を要するシステムティックレビューを行いました。また、患者代表を含むさまざまな職種の代表者による検討会議を複数回重ね、

さらに関連学会・団体からの意見やパブリックコメントを踏まえて、内容を修正し完成に至りました。改めて本ガイドライン作成にご尽力いただいた皆様に御礼申し上げます。

今回の改訂で特に重視したのは、腎臓リハビリテーションを「運動療法」だけに限定せず、患者さんの生活全体を支える包括的な取り組みとして捉え直した点です。理学療法、看護、栄養の各領域について新たな Clinical Question (CQ) を設定し、電氣的筋刺激療法、活動量計を用いた身体活動支援、看護師を含む多職種による療養支援、運動療法と栄養療法の併用に関する系統的レビューも行いました。これにより、腎臓リハビリテーションは医師だけでなく、理学療法士、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床心理士、社会福祉士など多職種が連携して実践する医療であることが、より明確になりました。

また、行動変容、認知機能・精神心理、保険制度に関する内容が新たに加わったことも大きな特徴です。腎臓病は長く付き合っていく疾患であり、リハビリテーションも一時的に行えばよいものではありません。患者さんが自分の体調や生活に合わせて無理なく継続できること、家族や地域の支援を受けながら社会参加を保てることが大切です。そして、「できること」を少しずつ増やしていくことも、腎臓リハビリテーションの重要な目標です。今回のガイドラインは、そのような日常生活に根ざした支援の方向性を示すものとなっています。

腎臓リハビリテーションの目的は、単に検査値を改善することだけではありません。患者さんが疲れにくくなる、歩きやすくなる、外出しやすくなる、自分らしい生活を続けられるようになることも重要な目標です。改訂第2版が、医療者にとっては日常診療の実践的な手引きとなり、患者さんにとっては腎臓病とともにより良く生きるための支えとなることを願っています。

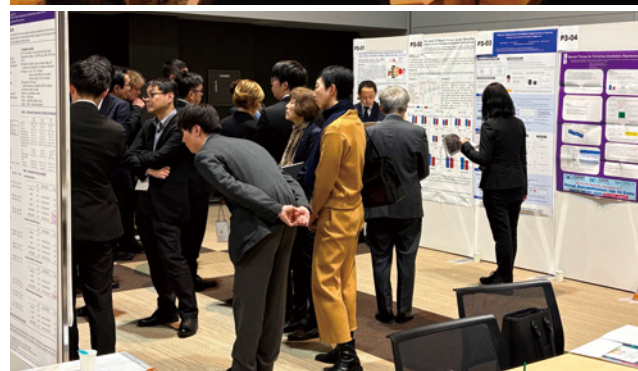
WCN'26サテライトシンポジウム“Renal Rehabilitation Up to Date”報告

国際腎臓リハビリテーション学会理事長 上月 正博
日本腎臓リハビリテーション学会前理事長 山縣 邦弘

2026年にわが国で36年ぶりに開催された World Congress of Nephrology (WCN) の正式サテライトシンポジウムとして“Renal Rehabilitation Up to Date”を2026年3月26日(木)、27日(金)の2日間、ホテルメトロポリタン仙台と仙台国際センター展示棟を会場に本学会(JSRR)、International Society of Renal Rehabilitation (ISRR)、Global Renal Exercise Network (GREX)で共同主催しました。本会は2025年のJSRR 定例理事会において、伊藤副理事長から開催の提案があり、上月(ISRR 理事長)、山縣(JSRR (提案時)理事長)、Paul Bennett 教授(GREX 代表)を会長として、WCN2026事務局に申し出ることを決議し、WCN2026の唯一の公式サテライトシンポジウムとして承認されたものです。企画・運営の中心となる事務局長の重責を提案者でもあるJSRR 副理事長・東北医科薬科大学教授の伊藤修先生に担っていただきました。

JSRR は腎臓リハビリに関する世界初の学会として2011年に設立された会員約3,200人の学会です。毎年開催の学術集会、ガイドライン作成、指導士制度導入、診療報酬化に関して世界をリードしてきました。ISRR は、腎臓リハビリに関する各国組織の集合体として2019年に設立され、上月が理事長を務め、毎年、学術集会で著明な研究者の講演を発信しています。GREX は、腎臓病における身体活動の増加と健康状態の改善に関心を持つ世界の研究者個人約380人によって構成される集団で、不定期に講演などを行っています。

本シンポジウムでは、計18題の講演をJSRR 主要メンバー、米国、豪州、英国、カナダ、ポルトガル、チェコ、中国、シンガポールなど9カ国の腎臓リハビリ研究者の参加のもとに行いました。海外からの



講演者の多くは、上月が2019年にカナダで開催されたGREX summit meetingに招待された際に知り合った方々や、ISRR 学術集会長として過去に招待講演を依頼した方々であり、事実上、世界の腎臓リハビリ研究のトップランナーたちが仙台に一同に集いました。また、計16題のポスター発表を多職種の研究者が英語で立派に発表を行いました。シンポジウムや懇親会には多くの関係者の参加があり、活発な国際学術交流の場となりました。

本シンポジウムは、腎臓リハビリ研究・臨床・制度のすばらしさを世界に知らしめ、しかもわが国(すなわち本学会)が先頭を走っていることを再認識した歴史的なシンポジウムでした。今後とも、皆様のご協力・ご支援を切にお願いいたします。



第16回腎臓リハビリテーション学会学術集会報告

第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

大会長 深水 圭

久留米大学医学部内科学講座 腎臓内科部門 主任教授

2026年3月15日(土)から16日(日)にかけて、第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を、福岡県久留米市の久留米シティプラザにて開催いたしました。

本学会は、腎臓リハビリテーションガイドライン改訂の時期と重なり、また透析時運動指導等加算の算定開始から4年が経過した節目でもあったことから、「腎臓リハビリテーションの有効性を検証する学会」と位置づけ、テーマを「一歩ずつ、明日への健康を築く～腎臓リハビリテーションの力～」といたしました。

本学術集会では、血液透析患者におけるリハビリテーションの有効性を検証するとともに、透析導入回避を目指した保存期CKD患者にも焦点を当て、腎臓リハビリテーションの力がどのように明日への健康を築くのかについて議論を深めました。プログラムは、招請講演5セッション、学術委員会企画2セッション、シンポジウム7セッション、ジョイントシン

ポジウム11セッション、よくわかるシリーズ15セッション、教育講演12セッション、インタラクティブワークショップ2セッション、ハンズオンセミナー1セッション、多職種連携セッション1セッションで構成し、医師のみならず、看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士、薬剤師など、多職種の皆様に活発にご参加いただきました。

また、300題を超える一般演題の応募に加え、日本音楽療学会、新百合ヶ丘病院音楽部、久留米大学医学部管弦楽部、久留米音協合唱団とのコラボレーションも実現し、音楽の重要性についても感じていただけたのではないかと考えております。参加者数も1,300名を超え、主催者として大きな安堵とともに深い喜びを感じております。

ご多用の中、ご登壇・ご発表・ご座長をお務めいただいた先生方、運営を支えてくださったスタッフの皆様、そして何より本学会を支えてくれた教室員の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。



第16回学術集会 Young Investigator Award 受賞者紹介



住吉 良太 北海道循環器病院 心臓リハビリセンター

「口腔機能低下症は腎機能低下の独立した予測因子である： CKD 合併高齢心不全患者における縦断的検討」

この度は、第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会において YIA 最優秀賞にご選出いただき、誠に光栄に存じます。本研究の遂行にあたりご指導を賜りました北海道循環器病院心臓リハビリセンター長・大堀克彦先生、阿部史先生、ならびに共同演者としてご協力いただいた心臓リハビリセンターおよび栄養科のスタッフの皆様、心より御礼申し上げます。本研究では、口腔機能低下症を併存する保存期 CKD の高齢心不全患者さんを1年間追跡し、口腔機能低下症の併存が腎機能低下と関連し、独立した予測因子となり得る可能性を示しました。これらの結果は、口腔機能評価がリスク層別化に有用であり、新たな腎臓リハビリテーションのターゲットとなり得ることを示唆しています。今回の受賞を励みに、腎リハのさらなる普及と発展、そして患者さんの生活の質向上に貢献できるよう、一層精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



野地 剛史 小田原循環器病院心臓リハビリテーション室

「血液透析患者における身体機能と栄養指標の組み合わせによる 生命予後予測能の検証：REPnet-HD Study」

この度は、第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞にご選出頂きまして誠に光栄に存じます。本研究の実施にあたり、データ収集や研究に関するご指導を頂きました REPnet の先生方、データ測定にご協力いただいた小田原腎内科クリニックのスタッフの皆様にはこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

本研究は、血液透析患者における身体機能と複数の栄養指標の組み合わせに予後予測能を検討し、Short Physical Performance Battery と Geriatric Nutritional Risk Index を組み合わせることにより予後予測能が向上を認めました。本研究の結果は、血液透析患者の身体機能と栄養指標の双方を適切に評価して行く重要性を示唆されました。この度の受賞を励みに、今後の腎臓リハビリテーション分野の普及と発展に貢献できるよう、より一層研究活動に精進して参ります。



上床 隆太 大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学

「保存期 CKD 患者における植物性たんぱく食の効果： PLANT-CKD trial」

この度は第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 優秀賞にご選出いただき誠に光栄に存じます。ご指導いただきました坂口悠介先生、猪阪善隆先生、共同演者の先生方に深く感謝申し上げます。本研究は CKD 患者を対象とした4週間の非盲検ランダム化比較試験であり、対象者を植物性たんぱく比率70%の植物性たんぱく食群と50%の対照群に割り付け、植物性たんぱく食が尿毒症物質の蓄積や腸内細菌叢異常など CKD 特有の病態に与える効果を検証しました。その結果、植物性たんぱく食はトリメチルアミン N-オキシド(TMAO)の減少、アシドーシスの改善、短鎖脂肪酸の増加、腸内細菌叢の改善をもたらし、血清 K 濃度は上昇させませんでした。本研究の結果が CKD 患者における食事療法の新たな選択肢を検討する一助となれば幸いです。この度の受賞を励みに、医師として腎臓リハビリテーションの実践と発展に尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



新百合ヶ丘 あさおクリニック

医療法人あさお会 あさおクリニック
院長 前波 輝彦



1. 施設紹介

あさおクリニックは、神奈川県川崎市麻生区の新百合ヶ丘にあり、腎臓内科・透析医療はもちろんのこと透析治療に必要なバスキュラーアクセス手術を提供する、地域に根ざしたクリニックです。慢性腎臓病(CKD)の管理から維持透析まで幅広く対応し、「患者中心の医療」と「生活の質(QOL)の向上」を重視した診療を行っています。地域医療機関との連携を密に図りながら、外来診療および透析医療の双方において継続的なケア体制を構築しています。

2. 腎臓リハビリテーションとチーム医療



当院では、透析患者の身体機能低下やフレイル予防を目的として、腎臓リハビリテーションに積極的に取り組んでいます。医師、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、薬剤師などの多職種が連携し、個々の患者の状態に応じた包括的な管理を行っています。

腎臓リハビリテーションは、単なる運動療法にとどまらず、栄養・生活指導を含めた総合的介入として位置づけられています。当院でも患者の自己管理能力の向上に重点を置き、CKDの重症化予防や透析患者の予後改善を目指して取り組んでいます。

3. 透析患者に対する運動療法の実践

透析患者に対する運動療法は、主に透析中あるいは透析前後の時間を活用して実施しています。患者ごとの体力や合併症の有無を考慮し、安全性を最優先に、無理のない範囲で継続可能な運動プログラムを提供しています。

透析患者は運動習慣の乏しい方が多く、日常生活に取り入れやすい軽運動や歩行指導を通じて、運動への動機づけを重視してきました。これは、運動療法の導入・継続を支援する重要な要素と考え、他施設でも報告されているように、透析患者の身体機能維持・向上に寄与することが期待されるからです。

4. 地域連携と今後の展望

あさおクリニックでは、外来診療から透析治療、さらには在宅・介護領域まで切れ目のない支援体制の構築が重要と考え、地域の医療機関や介護施設との連携を通して、透析患者の日常生活を支える包括的な医療提供を目指してきました。

今後、腎臓リハビリテーションのさらなる充実を図るとともに、患者のQOL向上やサルコペニアやフレイル予防を目的として、多職種と密な連携を取り、地域における腎臓リハビリの拠点として、より質の高い医療の提供を目指したいと思っています。



医療法人あさお会 あさおクリニック

〒215-0004

神奈川県川崎市麻生区万福寺1-8-10

TEL: 044-955-9126

URL: <http://www.asao-clinic.com>

第17回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

第17回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会 長 松永 篤彦 北里大学名誉教授
副会長 柴垣 有吾 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 教授
事務局長 齊藤 正和 順天堂大学保健医療学部 先任准教授

このたび、第17回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を、2027年3月20日(土)・21日(日)の2日間、パシフィコ横浜 ノースにおいて開催する運びとなりました。医師をはじめ、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、薬剤師、保健師、公認心理師(臨床心理士)、ならびに行政関係者など、多職種の参加を得て、腎臓リハビリテーションのさらなる発展に向けた活発な議論が行われることを期待しております。

本学術集会のテーマは、「みんなで支える腎臓リハビリテーション ― チーム医療でつなぐ確かな疾病管理 ―」といたしました。

慢性腎臓病(CKD)患者においては、保存期から透析期、さらには腎移植後に至るまで、病期を超えて共通する重要な課題として「身体不活動」が存在します。身体不活動は、運動耐容能や筋力、身体機能の低下を招き、フレイルやQOL低下を介して、心血管イベントや生命予後の悪化に深く関与することが明らかとなっています。すなわち、腎疾患における疾病管理の中核には、原疾患や合併症(併存症)に対する治療介入に加え、身体機能の評価と日常生活における身体活動の維持・促進を支える包括的介入が位置付けられています。

一方で、運動耐容能や身体機能の改善を目的とした運動療法を実施しても、必ずしも生活全体の身体活動量が向上するとは限りません。患者を取り巻く生活環境や心理・社会的要因への配慮、さらには家族を含めた支援体制の構築が不可欠です。ここにこそ、医師のみならず、多職種が相互に理解し、役割を分担しながら協働する「チーム医療」の本質があると考えております。

本年4月に『腎臓リハビリテーション診療ガイドライン(改訂第2版)』が発刊されました。本学術集会では、腎臓リハビリテーションの理念ならびに目標に基づき、多職種協働による疾病管理を中核に据え、その実践とエビデンスの整理を通じて、現場で実装可能な取り組みについて議論を深める場としたいと考えております。また、地域連携や医療と生活をつ

なぐ支援のあり方など、社会的視点からの検討も重要なテーマとして取り上げてまいります。

ご参加いただく皆様にとって有意義な学術集会となるよう、鋭意準備を進めてまいります。皆様と横浜でお会いできますことを、心より楽しみにしております。



会 期：2027年3月20日(土)・21日(日)
会 場：パシフィコ横浜 ノース
会 長：松永 篤彦(北里大学 名誉教授)
副会長：柴垣 有吾(聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 教授)
U R L：<https://www.gakkai.co.jp/jsrr17/index.html>
事務局長：齊藤 正和(順天堂大学保健医療学部 先任准教授)
運営事務局：株式会社 学会サービス
〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町 7-3-101

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

●会員現況 (2026年4月30日現在)

正会員数 2,996名 (医師1,030名 医師以外1,966名)

施設会員 169施設 賛助会員 1社

●役 員

理事長	柴垣有吾						
副理事長	伊藤 修	深水 圭	松永篤彦				
理事	阿部雅紀	倉賀野隆裕	上月正博	齊藤正和	武居光雄	友 雅司	成田一衛
	平木幸治	星野純一	牧田 茂	水内恵子	宮崎真理子	山縣邦弘	和田 淳
監事	柏原直樹	小林修三					
幹事	石川祐一	伊藤大亮	小坂志保	斎藤知栄	櫻田 勉	祖父江理	飛田伊都子
	原田 卓	藤井直彦	細島康宏	松沢良太	三浦美佐		
名誉会員	秋澤忠男	和泉 徹	伊藤貞嘉	伊東春樹	草野英二	斉藤喬雄	中西 健
	平松義博	楨野博史	保嶋 実				
代議員	青池郁夫	浅野貞美	浅見豊子	安達裕一	阿部貴弥	荒川鉄雄	荒木信一
	有馬秀二	安藤康宏	猪飼哲夫	井垣 誠	池田大輔	池森敦子	石井孝典
	石川英二	磯 良崇	伊藤孝史	伊東秀崇	伊東 稔	今澤俊之	岩根美紀
	植田敦志	白井俊明	白井直人	宇田 晋	内田明子	内山清貴	宇野千晴
	海老原至	大内雄太	大川卓也	太田喜久夫	大竹剛靖	大西康博	大橋尚弘
	大山恵子	緒方浩顕	岡 英明	岡本威志	小川真澄	小川佳子	奥田康輔
	奥田絵美	奥村利矢	尾崎美紀子	小田弘明	音部雄平	小幡裕明	甲斐平康
	風間順一郎	加藤明彦	兼長貴祐	蒲澤佳子	上條祐司	河辺信秀	河原崎宏雄
	神田英一郎	神田武志	菊池正雄	岸村厚志	木田圭亮	北島幸枝	北林 紘
	北村健一郎	木村 剛	木村朋由	忽那俊樹	熊坂隆一郎	熊坂礼音	黒尾 誠
	小岩文彦	河野健一	小崎恵生	小島 将	小関裕二	後藤真希	古波蔵健太郎
	木庭新治	小林静佳	小林 愛	小山照幸	今田恒夫	齋藤久夫	齋藤 満
	佐伯博子	坂本杏子	櫻井吾郎	佐々木環	佐々木裕子	笹富佳江	佐藤恵美子
	佐藤聡見	重松 隆	柴田 了	島田美智子	庄司繁市	白井信行	鈴木祐介
	鈴木裕太	瀬戸由美	高田亜紀	高田知朗	高橋哲也	高橋直子	高山朋子
	田倉智之	武田尚子	田中 舞	田中哲洋	田中元子	田畑吾樹	田原 恒
	田淵啓二	田淵牧子	玉浦有紀	玉垣圭一	田村岳志	田村由馬	土田陽平
	土谷 健	鶴屋和彦	土井悦子	遠山直志	戸田 晋	富田泰史	中島 歩
	長洲 一	長田太助	中村典雄	西岡心大	西村彰紀	西山 成	西脇宏樹
	野村卓生	蓮池由起子	長谷川毅	畠山真吾	花房規男	濱 知明	濱田昌実
	野口雅弘	濱地亮輔	濱野慶朋	濱野直人	林 謙治	檜垣靖樹	日高寿美
	藤谷順子	古井秀典	細井雅之	堀田一樹	本田浩一	前田清司	前田知子
	藤田 雄	牧野健一郎	正木崇生	升谷耕介	松藤勝太	松本竜季	三浦伸一郎
	三浦平寛	溝渕正英	満生浩司	村上礼一	室谷嘉一	森下義幸	森 建文
	森永裕士	森みさ子	森山善文	谷澤雅彦	安 隆則	安田宜成	矢部広樹
	山口智也	吉田卓矢	若林秀隆	脇野 修	和田隆志	渡辺久美	